

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和２年度採択）

中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
2020-1	マルチスケールな拠点空間計画のための新たな行動モデル研究	東京大学 教授 羽藤 英二	A
<p><研究の概要></p> <p>自動走行交通ネットワークに対応した交通拠点整備計画において、従前の HWH のような単純な交通行動のパターンを前提にした手法論が、情報化、近居・遠居の浸透、経済の停滞を背景に転換を迫られている。本研究では、長距離バスや自動走行-シェアリング技術の進展に伴う、1) 交通拠点施設内と接続空間における 3 次元行動モデル、2)1km 四方の交通拠点近傍の人々の行動パターンの解析と予測、3)2 次交通を含む都市圏域における人々の行動パターンの解析と高速計算手法の構築、4) 日本全体のマルチスケールな交通需要予測の解析方法を開発することを目的に実施する。</p> <p><中間評価結果></p> <p>研究の各要素については、申請者のこれまでの研究蓄積を生かした取り組みが進んでいる。今年度構築したデータプラットフォームを活用した分析・検討が適切に行われることが予想されることから、現行のとおり推進することが妥当であると評価する。</p> <p><参考意見></p> <ul style="list-style-type: none">・政策に応用できるようにモデルの一般化に努めていただきたい。・データ収集と統合、分析などの要素技術が本研究の目的以外にもどのように活用できるかを提示していただきたい。・サブテーマの関連性や、特定課題として一括して行うことの必然性等がわかりにくいので、研究計画の全体見通しと研究成果を明確化して修正いただきたい。・次年度に研究の一番の進捗が図られることが想定されるため、次年度の進捗管理を適切に行っていただきたい。・外注の割合が大きいため予算計画を再考し、効率的・効果的な研究遂行・費用削減に努めていただきたい。			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第 42 回新道路技術会議において審議したものである。